

2021年 大阪大学

〈2020年入試より〉

- ①文学部と外国語学部の問題が**共通**となり、大問を1つにして、中を3つのテーマに分けた。
- ②新テストと新学習指導要領の影響からか、**史料の読み取り&思考力を問う&複数回答**という新しい形式を導入した。 *史料は知らなくても問題ないモノ
- ③内容面には、ベトナム近現代～戦後史, 18世紀末～19世紀半ばの東欧・中欧, 近現代のイラン・サウジアラビア・イスラエル(宗教と政権)であり、**阪大が好きな単元やテーマ**であった。
- ④論述は200字・300字・250字の3つで**4年ほど前に戻った**。そのため、史料を読んでいると時間に間に合わない受験生が続出、**時間配分**には要注意！

〈昨年までの阪大は・・・?〉

①大問3問 ✕

文学部と外国語学部の問題は大問Ⅰ・Ⅱは同じ、大問Ⅲだけ違う

大問Ⅰ・Ⅱは東洋史・西洋史が1問ずつ

大問Ⅲは文学部が19～20世紀の世界、外国語学部がほぼほぼ戦後史 *2018・2019年は同じ問題

②レベル ◎ さらに簡単になった気がする

山川用語集赤字(85%以上が頻度4以上)

③問題形式 ✕

100～200字が6～8問(半分がタテやヨコのテーマ史)、短答問題は4～5問(10～15点程度)

④出題ポイント ◎

全く同じ問題は出題されないが、**文章要素(パーツ)**が同じモノが多々出題されるので、できる限りたくさんの過去問を熟読することが重要(4～6年に1回、**同じパーツを繰り返す**ので、販売されている**〈過去5年間の過去問〉**では**同じパーツを当てることはできない**)

⑤超注意事項 △

ここ3～4年で出題傾向が徐々に変化してきている。200～300字がたくさん出題された時代とは対策方法は大きく異なった。しかし、出題される〈内容〉は阪大らしさを残しているため、決して過去問を疎かにしてはいけない。ただ、同じ形の出題があるわけではないので、〈添削記述〉をするよりも、設問 ➡ 解答の〈熟読〉で〈パーツ〉を覚えていく勉強が重要となる。

過去問は字数を見るのではなく、単元や分野やテーマに着目したい！しかも、近年ではなく、5年前以上のモノがリメイクされることが多いので、せめて問題だけでも入手したい！

〈対策の狙い〉

1)中国史

中国王朝と周辺民族や国家の関係 * 北方民族や朝鮮半島や東南アジア

文化史は学問と思想が中心 * 儒学・道教・仏教・キリスト教

社会経済や法制関連の問題が多い * 農業・商工業・貿易

2)他のアジア史

インド史・イラン史・パレスティナ史・トルコ史・ベトナム史・ジャワ史など

16～19世紀の列強によるアジア・アフリカ植民地化と抵抗運動

民族・宗教問題と紛争関連

3)西洋史

建国の背景・分裂の様子・戦争の流れ・対立の状態・支配方法などが論述化される

定期テスト的な学習で得点できるスタンダードな内容 * 用語の説明より意義や結末

地域的には、ドイツ～東欧(バルカン含む)・中南米&カリブ海は注意したい！

4)テーマ史

外国語学部と同じ問題になったことで、戦後史関連が1問、文化史関連が1問となっていく出だろう。

* 政治と文化(宗教や思想も含む)のかかわり、民族&宗教&性別の差別・芸術と科学技術の意義・文字&貨幣&暦の変化と比較などに要注意！ 過去問から洗え！